

「地方創生カレッジ in 高知県四万十町」 のまとめ

1. テーマ

最先端の田舎暮らしへ～「わかりやすい・使いやすい・暮らしやすい」DX～

2. 現状と問題点

- ・全国各地で人口減少に起因した様々な社会課題が生まれており、こうした社会課題を解決する手段の一つとしてDXの推進があげられる。
- ・DXとは、企業組織全体のデジタル化を推進し、かつビジネスモデル・組織風土を変革していくことである。
- ・デジタル技術や地域資源・特性を用いながら「地域社会の持続性確保」を推進する必要がある。

3. 課題解決に向けたポイント

- ・デジタル化は目的ではなく一手段に過ぎない。デジタル化の意義は、社会全体の効率化と幸せな暮らしの実現のためである。
- ・自治体内外で絶やすことなくコミュニケーションをとり続けることが重要。
- ・住民サービスのデジタル化には官民連携が必須。

4. 参加者の学び・気づき

- ・学ぶパート、考えるパート、経験するパートなど多方面からの学びがあり大変ためになった。
- ・DXを進めるうえでの情報共有や、チームビルディングなどの多くのヒントを頂いた。
- ・今回の研修で地方創生におけるDXの活用の重要性を強く感じた。『コミュニケーションの重要性』については弊社での取り組みの際にもその大切さ及び難しさを痛感しているところだったため、共感や発見が多くあり、非常に有意義だった。
- ・DXによって自分自身や組織の働き方・あり方がどう変わるとよいのかということを考えるきっかけとなった。仕事の基本は「コミュニケーション」であること、それを活性化することが働きやすい職場や良い仕事につながる、その「コミュニケーション」を活発化させるための一つ的手段としてDXがあるということ学んだ。
- ・DXが地域課題の解決にどのように役立つのかを深く考える貴重な機会だった。特に、住民目線を忘れないDXの重要性や、実際の事例を通じた学びが印象的だった。フィールドワークではドローン体験など実践的な活動を通して地域に密着した取り組みを実感。グループワークではデータを活用した論理的な施策立案を体験し、地域をよりよくするための新たな視点を得られた。まちの未来を明るくする多くのヒントをいただきました！

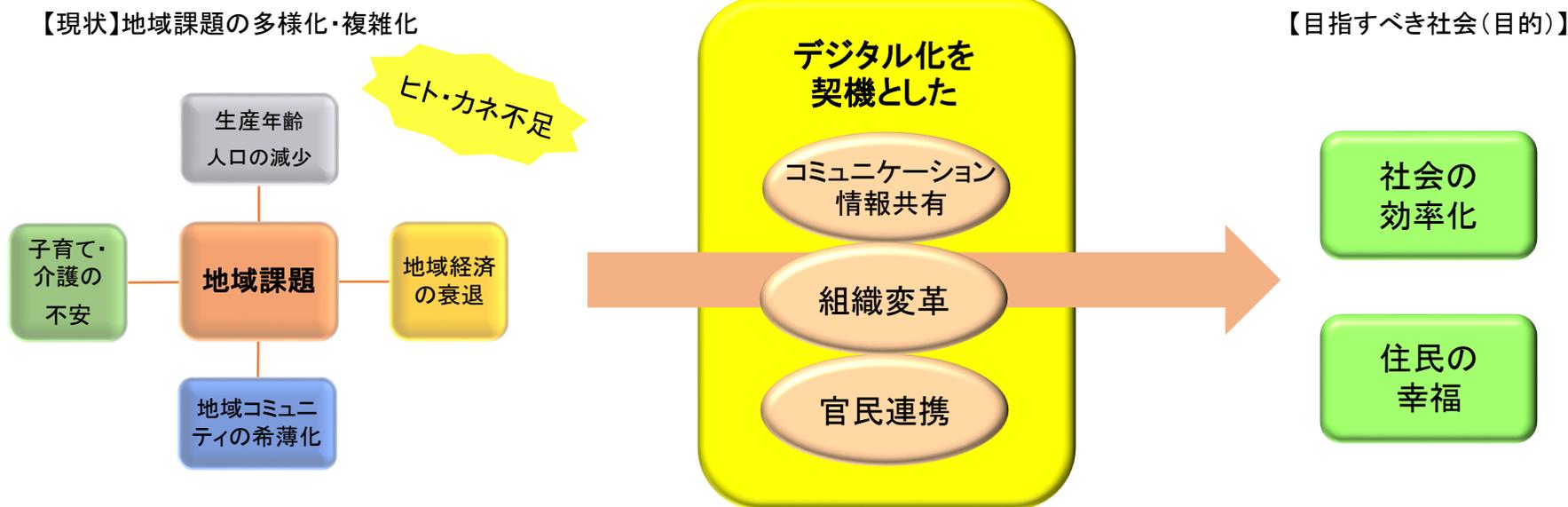
「地方創生カレッジ in 高知県四万十町」 のまとめ

5. 成果スキーム図

【現状・地域課題】

- ・全国各地で人口減少に起因した様々な社会課題が生まれており、こうした社会課題を解決する手段の一つとしてDXの推進があげられる。
- ・DXとは、企業組織全体のデジタル化を推進し、かつビジネスモデル・組織風土を変革していくことである。
- ・デジタル技術や地域資源・特性を用いながら「地域社会の持続性確保」を推進する必要がある。

【課題解決に向けてのスキーム図】



【全体の成果】

デジタル化は目的ではなく、一つのツールであり住民をより幸せにするには何が必要なのかを考えること、そのためには、自治体内外の人々とコミュニケーションを欠かさないことが重要。